

令和4年度総務文教常任委員会行政視察報告書

令和5年1月23日

1. 日 時 令和4年10月25日（火）～27日（木）
2. 視察先及び 島根県安来市 防災情報システムの構築について
視察事項 鳥取県米子市 移住定住の促進について
3. 視察者 委員 佐藤 俊夫 委員長 中野 元栄 副委員長
大平 一貴 委員 樋口 博務 委員
当局 小柳 貴之 総務課課長補佐
随行 石津 敏朗 議会事務局係長

安来市（島根県）

1. 市制施行 昭和29年4月1日
2. 人口及び面積 38,152人（令和3年3月末現在）
13,032人（65歳以上の高齢者）
420.93km²

3. 安来市の概要

島根県の東部、鳥取県との県境に位置し、東は米子市、西は松江市に接している。そして、安来節やヤスキハガネは、全国的、世界的に知名度がある。

安来市の過去の災害事例は、1934年の室戸台風始め、台風や豪雨の被害に見舞われている。安来市地域防災計画を策定し運用、最新は2019年6月に更新しソフト対策、ハード対策を組み合わせて一体的に災害対策に取り組んでいる。

2021年7月の豪雨災害の対応の検証をする中で情報を共有、災害情報の集約や集計の迅速化の取り組みの工夫の結果、防災情報のシステムの構築を整備した。災害情報の共有と集約を図るため、庁内の各部署での災害連絡票様式を統一し、併せて、島根県松江県土整備事務所、広瀬土木事務所や安来警察署ともこの書式を統一することで、所管課（防災課）のエクセルファイルに情報集計の迅速化が可能となった。また、災害に強いまちづくりとして災研修棟、市民広場を整備して中心市街地エリアの避難場所としての機能を充実している。

（非常用発電機、多目的トイレ、ソーラー照明外）

なお、自主防災組織は、57組織、71%である。

4. 所 感

安来市が防災情報システム構築するにあたり、過去の災害対応の問題点を洗い出し、それを解決するために全庁的に取り組み、外部委託はせずに職員にシステム構築を実施したこと。また、関係機関とも連携し、市民や近隣の市町村とも共有することを可能としたことを高く評価したい。

米子市（鳥取県）

1. 市制施行 昭和2年4月1日（1市3町合併）
2. 人口及び面積 146,108人（令和4年4月1日現在）
132.42km²

3. 米子市の概要

山陰地方のほぼ中央に位置する交通の要衝であり、古くからの商業のまち、鉄道のまちとして栄えている。米子空港、中国横断自動車道、山陰自動車道、山陰本線など山陰地方で最も交通機関が発達し、山陰地方最大人口集積でもある。山陰地方の表玄関として役割を果たしている。

4. 事業内容

米子市は、2015年に暮らしやすさの指標で全国1位となった様々な年代、志向、世帯状況での生活環境が整い、病院、学校、保育園、飲食店コンビニなどが徒歩圏内や車で15分圏内にある。

また、充実した医療環境、介護環境であり、医師数は10万人当たり全国平均の2倍、介護施設数は362か所、高齢者千人当たりの施設は米子市16.3全国平均11.3である。

そして、移住者数は鳥取県内で1位である。（令和3年度米子市591人、鳥取市473人、倉吉市261人、境港市224人等）

5. 施策（別紙「移住支援策一覧」参照）

- ①ビジネス人材移住支援金
- ②お試し住宅
- ③とっとり暮らしアドバイザー設置要綱（鳥取県）

移住、定住に熱心に取り組んでいる方にアドバイザーとして委嘱（米子市10人）

6. 所感

当日は、とっとり暮らしアドバイザーの方と米子市総合政策課から対応していただいた。別紙「移住支援策一覧」のとおり特に特記、参考になる施策は行っていないが、米子市が鳥取県内で一番移住者が多いのは何故かとアドバイザーに質問したら当人も移住者であり、簡単にいうと市民性だと思うし移住者に親切で優しいとの事だった。米子市もこれ以上の施策は企画していないとの事だった。

鳥取県に移住、定住者が多いのは、鳥取県と各市町村で見える形で活動しており、情報発信や先輩移住者との交流などきめ細かな取り組みがなされているためだと感じた。